

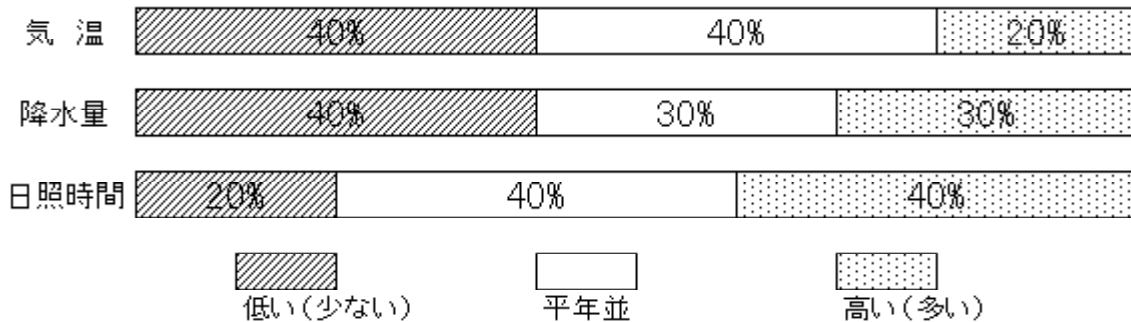
平成31年度 病害虫発生予察情報 発生予報第2号（5月）

平成31年4月26日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	やや少ない
		赤かび病	やや少ない
	イネ	うどんこ病	平年並～やや少ない
		ヒメトビウンカ	平年並
果樹	ナシ	ニカメイチュウ	やや多い
		イネミズゾウムシ	やや多い
		黒斑病	平年並
	カキ	黒星病	平年並
		シンクイムシ類	平年並
		ハマキムシ類	平年並
野菜	タマネギ	ハダニ類	平年並
		灰色かび病	平年並
	イチゴ	カキクダアザミウマ	平年並
		ボトリクス属菌による葉枯れ	平年並
		べと病	やや少ない
	腐敗病・軟腐病	やや多い～多い	
	うどんこ病	やや少ない	
	アブラムシ類	平年並～やや多い	
	ハダニ類	やや多い	

中国地方1か月予報(4月27日～5月26日・広島地方気象台4月25日発表)
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類 (小さび病、赤さび病)

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では発生を認めていない。
- ② ムギの生育は早い。
- ③ 5月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では発生を認めていない。
- ② ムギの生育は早い。
- ③ 5月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(3) うどんこ病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや少ない

予報の根拠
① 4月下旬の巡回調査では発生を認めていない。
② ムギの生育は早い。
③ 5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠
① 予察灯への飛来は、4月第4半旬まで認めていない。
② 4月中旬のすくい取り調査(耕起前)では、発生ほ場率は40.9%(平年27.6%)、捕獲数は0.9頭/20回振(平年1.1頭)で発生量は平年並みである。
③ 越冬世代成虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%(平年1.3%)と低い。
④ 5月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ(第1世代)

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 やや早い
発生量 やや多い

予報の根拠
① 予察灯への飛来は、4月第4半旬まで認めていない。フェロモントラップでの誘殺は、4月第2世代成虫発生量は、予察灯への飛来は29頭(平年12.1頭)、フェロモントラップでの誘殺数は89頭(平年69.9頭)と平年に比べてやや多く、越冬量は平年に比べてやや多いと考えられる。
③ 5月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや多い

予報の根拠
① 予察灯への飛来は、4月第4半旬まで認めていない。
② 前年の新成虫の予察灯による誘殺数は150頭(平年86.1頭)と平年に比べてやや多く、本年の越冬量は平年に比べてやや多いと考えられる。
③ 5月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容
発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠
① 4月下旬の巡回調査では発生を確認しておらず、発生量は平年並みである。
② 5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠
① 4月下旬の巡回調査では発生を確認しておらず、発生量は平年並みである。
② 5月の気象は本病の発生に対して特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠
① 初飛来日は4月第2半旬で平年並みである。
② 前年の性フェロモントラップでのナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並みで、越冬量は平年並みと考えられる。
③ 5月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠
① フェロモントラップの初誘殺は4月第3半旬で平年並みであり、誘殺数も平年並みである。
② 5月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠
① バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
② 4月下旬の巡回調査(安来市)では寄生花そう率は4.5%(平年4.0%)と平年並みである。主殺要種はクワオオハダニで、本種に効果がない殺ダニ剤があるので薬剤の選定には注意する。
③ 5月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) 灰色かび病

予報内容
発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠
① 4月下旬の巡回調査では発病葉率0.3%(平年1.1%)であり、発生量は平年並みである。
② 5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキクダアザミウマ

予報内容
発生地方 県内カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠
① 4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認めていない。
② 4月下旬の巡回調査では巻葉被害を認めていない。
③ 5月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠
① 4月下旬の巡回調査地点における発生量は、発生ほ場率6.7%(平年4.9%)、発病株率0.2%(平年0.1%)で平年並みである。
② 5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ベと病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠
① 4月下旬の巡回調査地点における発生量は、発生ほ場率16.7%(平年29.6%)、発病株率0.6%(平年2.9%)で平年に比べてやや少ない。
② 5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや多い~多い

予報の根拠
① 4月下旬の巡回調査地点における発生量は、発生ほ場率73.3%(平年30.2%)、発病株率は7.3%(平年1.4%)で平年に比べて多い。
② 5月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

注) 平成31年度 病害虫発生予察情報 技術情報第3号 参照。

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査地点における発生量は、発病葉率0.8% (平年0.8%)、発病果率0.3% (平年0.4%)で平年並みである。

② 5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) うどんこ病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査地点における発生量は、発病葉率0.1% (平年0.1%)、発病果率0.1% (平年0.6%)と平年に比べてやや少ない。

② 5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) アブラムシ類

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並～やや多い

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率22.2% (平年24.4%)、寄生株率3.3% (平年4.6%)、寄生小葉率0.8% (平年1.5%)と平年並みである。

② 5月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(4) ハダニ類 (ナミハダニなど)

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

やや多い

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率88.9% (平年68.1%)、寄生株率70.6% (平年38.9%)と平年に比べてやや多い。

② 5月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

注) 4月2日発表 平成31年度 病害虫発生予察情報 技術情報第2号 参照

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

島根県病害虫防除所 (島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp